

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



一般質問：版画美術館と文学館の相違

人気薄い版画美術館の企画展に変化が無い

国際版画美術館における入場者に人数が少ないと感じており、その実情を問いました。答弁では、年の4回ほどの企画展の期間観覧者数がおのおの10000人前後の数値を示されました。ただし、1日の入場者数に換算すると少ない人数だと思いました。再質問では、「子どもの入場料が無料に改定されたが、そのことを反映した新たな企画展が取り組まれているのか」と問いましたが、一部に子ども講座や子どものための鑑賞会が開催されていること、旧来からの町田市公立小中学校作品展を開催されていることがあげられました。実際には、その後も超マニアックな企画展ばかりが繰り広げられています。

一方で、町田市民文学館の企画については、少人数の学芸員数にも関わらず、親子連れに人気がある企画展をたびたび開催しており、絵本を題材としたものも多く、展覧会の構成、小物の配置など工夫が良くされていることを指摘しました。今回の質問を通じて、社会状況や市政の施策の変更にかかわらず、国際版画美術館の企画展内容を一律「学芸員」任せにしている問題が浮き彫りになりました。



一般質問：介護保険と事業者の運営動向

今回の質問は、介護保険事業で働く人とその事業者の動向を尋ねました。一般に介護職では離職者が多いと言われているが、実態がどうなのかが気になりました。その中で、訪問介護事業について、その事業で単価切り下げという事態があったことが、その就業者にとってどのような影響が出ているかを尋ねました。答弁では、「訪問介護 基本報酬」というもののうち、介護の単位数計算(身体、生活援助、通院等乗降介助)が引き下げられているが、他方で、訪問介護については、処遇改善加算が組まれ、今回の改定で高い加算率が設定されていると言うものであり、就業者にとって、待遇が低くなるものではないと言うものでした。



他方で、訪問介護(等)の事業者の配分がどのようなものか見えにくいものでした。果たして、個々の事業者の事業活動の評価は、事業所の改廃の動向以外に測定できないとすれば、その事業が困難になり、立ち行かない段階に至るまで状況が見えなくなり、働く人もそのサービスを受ける人も突然、狼狽することが生じるのではないかと危惧するものでした。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
55期生を募集予定

一般質問：電子投票選挙の歴史

電子投票選挙については、2002年に岡山県新見市でスタートし、全国で10の自治体(吉田つとむは、この10回所の選挙の全てを現場で視察見学)、20回を超す自治体で実施されましたが、8年前に終了しました。不思議なことに、紙から電子へことごとく変わる社会状況で珍しい事態が起きました。

こうした原因を作ったのは、岐阜県可児市議選挙の電子投票選挙でした。この選挙以外は、1台の投票機ごとに記録媒体を取り付けていた方式(スタンドアロン型)をこの時の実施メーカーは、複数の電子投票機をサーバーにつないだ(クライアントサーバ型)機種を提案し、実用試験を経ないで初採用されたものでしたが、サーバーがオーバーヒート(過熱)し、投票操作がストップして、投票に来た人の少なからぬ人が帰ってしまい、選挙の投票が異常な状態で進行(吉田も現場で、投票ストップを直に見る)したものでした。選管やメーカーは電子投票機の記録データに棄損が無かったという立場を押し通したのですが、選挙の当事者から選挙無効の裁判が起こされ、最高裁で(電子投票選挙の結果は)選挙無効の判決が確定し、紙を使った再選挙が行われ、「可児ショック」と称され、いまだ電子投票選挙は無効という呪縛が続いています。振り返ると、当時のこの1メーカーグループの無謀さと1自治体の偏狭さが、日本の電子投票選挙の進展を阻害したと理解されるものです。

今年の12月22日に、大阪府四条畷市の市長・市議補選で8年ぶりに電子投票選挙が実施予定で、選挙管理委員会にも期待を持ってもらいたいと求めました。(12月7日原稿作成)*下は日本で最初の電子投票選挙取材時。



東京理科大：大学祭点数評価は90点

今年の東京理科大学の大学祭点数評価は90点としました。学生の大学祭参加状況、教授のかかわりの点で見ると申し分のない点、その他を含めて楽しく、研究室ツアーをはじめ企画のレベルが高い水準にあります。学生が何を勉強したかを発表する部門が見当たらず、不明な点が残る意味で大学祭の全体評価を90点としました。



企画では、参加した研究室ツアー、時間のために見学できなかった公開授業、「化学王」の企画が優れており、来訪者を楽しませる、理科大ならではのレベルになっていました。武村研究室、斎藤(慎)研究室のご本人の教授、修士、4年生の皆さんが親切に対応されました。武村教授は巨大ウイルスの話が初めて聞く話で、コロナで話題になったものとは全く違ったタイプのもので、これから研究を進めると言うことでした。

斎藤(慎)教授は、有機化合物の話であり、例の亀の子が出てくるもので内容はちんぷんかんぷんでした。教授はそれを前提で話をされました。研究者の人たちは狭いスペースにびっしり試験器具を置き、一人一人の研究に励んでおられました。20点満点で20点とするものですが、教授の対応に5点を加点し、25点としました。

さらに、巡ってみると、射的がありました。サバイバルゲームの装備が予定されており、ゴーグルをつけての参加(有料)でした。他方で、吹奏楽部の演奏は一般の教室を使い、アンサンブル形式のもので、出演者と楽器で曲ごとに代わる楽しみがありました。総合して、20点満点で20点と評価しました。大学祭の運営では、最寄り駅からキャンパスまで、あるいはキャンパス内の随所に案内人が配置されており、訪問者にとってもフレンドリーでした。建物が分かれていたり、あるいは配置の分かりづらく、とてもやさしい思いやりでありました。時に、研究室ツアーは、引率者が先導し、一旦道路に出て遠足気分の雰囲気でした。(以下、長文のために略)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年9月末までに110名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次回のインターンシップは、2025年春季募集で2024年11月より広報開始しています。